

「本地丘小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

令和2年1月26日（日）に本地丘小学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「本地丘小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

日時：令和2年1月26日（日）10：00～11：40

場所：本地丘小学校体育館

参加人数：45人（保護者23人、地域住民22人）（本地丘35人、森孝東8人、森孝西2人）

区分	本地丘	森孝東	森孝西	合計
保護者	18人	3人	2人	23人
地域住民	17人	5人	0人	22人
合計	35人	8人	2人	45人

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合の必要性・学校規模の考え方に関すること

- 子どもに統合の話をしたところ、もっと早く（在校している間に）統合してほしかったと言っていた。
- 小規模から適正規模になるメリット・集団生活の良さは分かった。
- 児童数が増えれば部活動などのスポーツが盛り上がるという期待もある。
- 保護者の立場、地域住民の立場を考えると、正直、現状のままがよいと思うが、一番大事なことは子どもたちが健全に安心安全な教育を受けられればと思う。大事な未来の子どもたちを

守ることに、もっと大人がどのようにしたらよいかも考えるべきだと思う。

- 統合については17年くらい前から言われていたので、とうとうという気持ちである。
- 人が増えたら学校を建て、人が減ったから学校を減らすのか。
- 児童数予想は現在の未就学児数で計算していると思うが、住民の高齢化で住宅の建て替えが進んでいて、今後は新築され、若い夫婦の入居が考えられ子どもが増える。
- 本地丘小の優れたところを伸ばすために、統合すべきではない。
- 世界は小さなクラス、小さな学校へ進んでいるが、なぜ日本は大きくするのか。WHOは100人を超えないのを理想としている。小さいクラス、小さい学校のほうが教育の質が高くなる。
- 先生の数が増えるとのアンケートがあるが本当か。先生を減らすのが目的ではないのか。
- 学校規模についての根拠がない。ドイツでは20人学級が標準であり、世界では100人を超えない学校が望ましいと言われている。経費削減が目的ではないのか。

教育委員会の考え方

- 小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- 教育委員会では、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。
- 小規模校には、「学校行事で活動の場を与えやすい」、「一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい」といったよさがありますが、その一方で、「クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」、また、「指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる」といった課題などがあります。
- 3つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
- 教育委員会では、本地丘小学校（以下「本地丘小」といいます。）、森孝東小学校（以下「森孝東小」といいます。）、森孝西小学校（以下「森孝西小」といいます。）それぞれの学校のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていくなため、どの学年でもクラス替えのできる規模が確保できるよう統合することが必要と考えています。
- 本市では、小学校1年生・2年生での30人学級、小学校3年生以上は40人学級を基準

とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる12学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。

- 望ましい学校規模となった場合には、小規模校であった頃と比較すると校内の教職員数が増えるため、様々な学校業務をより多くの教職員で役割分担できるようになります。また、学年が複数学級となれば、学年ごとに準備が必要となる遠足や校外学習などの取り組みを担任同士で分担して計画・立案したり、実施したりすることができるようになります。
- 統合したなごや小の例では、平成26年度に当時単学級であった江西小学校（以下「旧江西小」といいます。）、那古野小学校（以下「旧那古野小」といいます。）の教員はそれぞれ11人でしたが、この2校と幅下小学校が統合して開校したなごや小では平成29年度の教員数が21人となり、多くの教職員で協力・連携しながら、教育活動・学校運営を行うことができるようになりました。

2 統合（案）に関すること

(1) 統合相手校・統合場所

- 子どもはこれからも減少傾向にある。令和7年以降の人口減少も見据えた統合案になっているのか。
- 児童数が年々減少する中、令和10年ごろには3校統合のレベルでは、再度、小規模校となりそうである。統合は大賛成だが、税金の無駄にならないよう統合数の見直しが必要である。
- 地域性にあった統合を考えてほしい。
- 小学校の統合だけの案は、なぜ、今回の意見交換会では無かったのか。
- こんなに自然環境のよい学校はないと思う。このままこの学校は残してほしい。本地丘小に統合したらどうか。

教育委員会の考え方

- 統合は、クラス替えのできる学校規模を確保していくことを目指しています。本地丘小、もりたかひがししょうとうごうしょうきぼこうかいしょうむづかじょうきょうが統合では、小規模校の解消が難しい状況です。このため、クラス替えのできる学校規模が安定的に継続するようにするため、3つの小学校の統合（中学校との併設）案をお示ししました。推計は0歳児が小学校に入学する令和7年度までしかありませんが、統合においては通学距離等も考慮し、検討することとしています。
- 森孝中学校（以下「森孝中」といいます。）の場所での統合を選定した理由は、①森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、本地丘小と森孝東小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。②3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2km以内となることです。
- 令和7年度の森孝中の生徒数は200名程度と見込んでおり、3つの小学校が統合したと想定

した場合の児童数400名程度と合わせ600名程度の児童・生徒数となる見込みです。現在の森孝
 中の校地の中で、施設の配置や整備を工夫しながら、小学校と中学校を併設することによ
 るよさが発揮される学校となるよう検討していきたいと考えています。
 ・教育施策については、市町村ごとの考え方に基づき、運営予算や校舎整備、教職員の配置
 等が行われていることもあり、現時点で市外の学校との連携については想定しておりませ
 んが、今後の参考とさせていただきます。

(2) 通学時の安全確保

- ・通学路の安全対策はどのように考えているか。通学距離が長くなるので車での送迎ができるよ
うにならないか。
- ・通学の安全対策をしっかりとってほしい。
- ・事故の多い道路もあり、小さい子が果たして安全に通学できるだろうか。
- ・尾張旭市を通過して通学することになるので、とくに低学年の子の通学安全が心配である。下校時
などは一人になることもあるが、何か配慮は考えているか。
- ・通学路を帰りに一人で歩いていると不安。不審者が今、ちょこちょこ出ている。
- ・保護者や地域による見守りの負担はどうか。
- ・中学生との通学時の住み分けをどうするか。
- ・森孝中から四軒家までの歩道が狭く、登下校時は自転車も多いので何か対策はあるか。
- ・通学路の面だけが心配。登下校中の児童の責任は誰が負うのか。冬の時期になると早く暗くな
り、部活動などで遅く下校することになっても、一人での下校は絶対にさせたくない。夫婦とも共
働きのため、毎回の送り迎えも困難。集団下校を徹底する、教員や市の職員が途中まで
一緒に下校するなどいろいろできることがあると思う。子どもたちの安全確保に徹底して努めて
ほしい。事件や事故があつてからでは遅い。通学路に防犯カメラを設置してほしい。
- ・本地丘小から森孝中まで、小学校一年生は何分ぐらいで通学できるのか。

教育委員会の考え方

- ・統合により通学距離が長くなり、通学路もこれまでとは異なることとなりますので、子どもた
ちへの負担に配慮することや、安全面での対策を講じることは大変重要であると考えてい
ます。
- ・通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所
など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域のご協力もいただきながら取り組み
たいと考えています。
- ・なごや小の場合には、次のような安全対策の強化を図りました。①狭い歩道へのガードパイ
プの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用
レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施

- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども110番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは「心配がなくなった」と回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。

(3) 小中併設の学校運営

- ・小中併設ではどのような学校生活になるのか。小中併設ありきで進めていくのか。
- ・場所だけ一緒になるのか、カリキュラム等も変わるのか。
- ・小と中が一緒になった場合、入学式や卒業式、部活動、トワイライトなどはどうなるのか。
- ・転出入児童生徒への配慮はどうするのか。
- ・小中併設の不安として、いじめ等が進むのではないのか。長い期間、我慢する子どもが出てくるのではないのか。
- ・今後、小中一貫教育を名古屋市として推奨していくのか。今回はモデルケースとして行っているのか。
- ・人間関係（いじめ等）も含め、多様なことが低年齢化されてきている時代にあって、上の学年とどのように関わっていくのか。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示ししましたが、小中併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小中一貫教育校」と呼んでいます。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。（この他に、修業年限を9年とする「義務教育学校」という校種の学校もありますが、現在名古屋市立

がっこうにはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点では小中一貫教育校と似ていますが、1つの学校であるため、途中で卒業式や入学式は想定されていません。)

- ・ 笹島小中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が異なるため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する(学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。)、②小学生と中学生と一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小中合同で実施しているが、生徒会や集会などは小中で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小中で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。

- ・ 併設では、小学校・中学校がそれぞれ設置される形ですので、部活動やトワイライト、児童生徒の転出入については、基本的には他の学校と同じ考え方で行われています。

- ・ 小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、今年度開校した他都市の義務教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見てくれているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりやすい体制であるとのことでした。

- ・ 3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステップ5において具体的に検討していきませんが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。

- ・ 教育委員会では、通学距離等で特に有効と考えられる場合は、小学校と中学校を併設した形での統合を検討することとしています。併設による統合の場合には、そのメリットを活かした教育の充実に取り組みます。

- ・ 笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知りたいという情報は、今後提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・ 今後のスケジュールについて知りたい。過去の事例ではどれくらいかかったのか。
- ・ もっと意見交換する場があったらいいと思う。
- ・ 今日のような会は、次もあるのか。

- ・統合ありきに少々疑問を感じた。「説明会を持ちました」と逃げないでほしい。
- ・まちづくりの部署と連携して子どもを増やす方向性を考えることはできないのか。

教育委員会の考え方

- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示しいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で、小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向けて、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。
- ・これからさらに検討を進め、統合に向けた具体的なプランをお示ししたいと考えています（ステップ3）。その際には、今回と同様に説明会を開催し、ご意見、ご要望をお伺いしながら進めたいと考えています。
- ・小規模校では、新1年生の人数が、前年度5歳児であった子どもの人数を下回ることが多く、結果的に児童数が増えていかないという傾向があります。教育委員会では、小規模校を解消し、子どものよりよい教育環境を整備することにより、児童数の確保に向けて取り組みを進めたいと考えています。

4 跡地に関すること

- ・跡地の活用についてはどう考えているのか。
- ・本地丘小の自然林はすばらしいので、それも踏まえて跡地活用を考えてほしい。
- ・グラウンド等は防災の避難場所として残してほしい。
- ・防災訓練などで引き続き使えるのか知りたい。
- ・廃校後の跡地利用について住民の施設として残してほしい。
- ・建物の保管・管理について、使用しないことにより不具合の発見が遅れる可能性がある。非常時の際にトラブルが発生しないように対応してほしい。

きょういくいいんかい かんが かつ
教育委員会の考え方

- 統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。
- これまでの学校跡地は、インターナショナルスクール（西区の旧江西小）、会議室、シェアオフィス、イベントスペース等（旧那古野小）、コミュニティセンター等（中村区の旧新明小学校）、私立中学校（旧六反小学校）、中村区役所等複合庁舎（予定）（旧本陣小学校）、民間保育園及び公園、地域住民利用施設（予定）、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等（旧亀島小学校）となっています。
- これまで統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。

5 その他

(1) トワイライト・学童保育

- トワイライトや学童保育はどうか。
- トワイライトスクールからトワイライトムールへの移行を強く希望する。

きょういくいいんかい かんが かつ
教育委員会の考え方

- トワイライトは小学校内を実施場所としていますので、現在3つの小学校それぞれで実施されているトワイライトは、統合校で実施されることとなります。
- 学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。
- 統合を進めるにあたっては、皆さまからのご要望を含め子ども青少年局や区役所に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。

(2) その他

- 名古屋市の小学校給食がひどいとネット上で言われている。子どもも全然足りないと不満を感じている。給食費を上げて改善してほしい。

きょういくいいんかい かんが かつ
教育委員会の考え方

- 本市の学校給食費は、平成21年度に改定して以来、11年間維持してきました。しかし、この間の食材価格の高騰により、これまでは、高い食材の使用を控えたり、安い食材に切り替えたりするなど、献立の対応により給食費を維持してきましたが、献立の工夫により給食内容を維持することが難しい状況となってきました。子どもたちにとって給食をより楽

しく魅力あるものとするために、多種多様な献立を提供するなど、給食内容の充実を図ることが必要と考え、令和2年4月から給食費を改定します。今後も安全・安心でおいしく、魅力的で、子どもたちにとって楽しい学校給食を継続して提供していきます。